

## 菅茶山顕彰活動の継承を願う

～コロナ禍中に想うこと～

藤田 卓三

世界中に猛威を振るうコロナ禍は、今までの社会や生活様式に制約と変更を余儀なくさせており、特に高齢者には、屋外活動の自粛やデジタル化など戸惑いと窮屈な一年でした。

菅茶山顕彰会においては、本年度の総会・講演会・茶山ポエム絵画格子戸展などは中止を余儀なくされ、学習会などはコロナ対策した内容に縮小変更せざるを得ませんでした。ただ、デジタル活用は進み、会員間連絡や顕彰会研修旅行などの主要行事が中止になり残念でしたが、一方、三密を避けた学習会や、菅茶山記念館と共催のゆかりの地訪問会、☒メール利用の会報編集・冊子の編集には、会合に代わり電子メールを活用するようになり、☒「菅茶山新報」はデジタルの本領を発揮することができました。

また、菅茶山記念館との共催事業の「☒茶山ポエム絵画展」が予定通り開催できただけでなく、「茶山ポエムハイク」と「茶山ゆかりの地訪問」が合体実施できたことは、コロナが生んだ新しい可能性だと考えています。さらには、行事縮小の余力があったからこそ、「松風館十勝碑林プロジェクト」、すなわち、心駐車場造成・説明板設置、記念冊子・パンフレットの編集に集中できたと思えば、「禍転福もあり」でした。

私たち菅茶山顕彰会の目的は「菅茶山を学ぶ。多くの人に知ってもらう。後世に伝える。」ことですが、コロナ終息後、顕彰会活動を復活し、さらに新時代にどう対応したらよいか、私見をまとめてみました。

まずは、集まる機会が少なくなっていた会員を念頭に、参加しやすい行事を企画することだと思います。茶山学習会、見学会など会員参加型の行事を増やし、楽しく交流しながら茶山の功績や生き方を学び、それを周辺に広めてゆくのがよいと思います。多くの方に参加をよびかけて頂きたいと思います。

今回の「十勝碑林プロジェクト」の良い点は、有志が協働して現地作業をしたこと、君推と中条にテーマを絞り、研究し発表しようとしたことではないでしょうか。浅学の者にも菅茶山を深く知る良い機会ですし、インターネットで調べ、パソコンで写真や文章を編集し、メールで情報交換する活動は今後の参考になります。また、ホームページ「菅茶山新報」の充実も課題です。菅茶山に関する

寄稿投稿や既発行文献のデジタル収納、顕彰会会員交流プラザの開設などやれることが多くあり、デジタルに強い会員が協力して取り組みたいと思います。

ここ数年、顕彰会は会員の高齢化が進み、会員数も減少傾向にあります。去年は前会長高橋孝一様を初め顕彰会の功労者が次々と亡くなり、精神的な支柱を失った感じさえしています。勿論、残された会員がしっかりと継承しており、新入会員・新役員の活躍も目覚ましく、将来を危うんでいるわけではありませんが、コロナ禍を機に役員の世代交代を進めるとともに、新規会員の増加に努力することが、菅茶山顕彰会の継承にはもっとも大事だと考えます。

また、会員の確保とともに地域社会・団体と連携・協力して、菅茶山顕彰会に関心を持つ人を増やし、「菅茶山・廉塾」を地域文化として発展させることも重要です。さらに、学校教育や地域の行事の中で、例えば「茶山ポエム絵画」や「茶山詩の素読」などの体験をおして、子どもたちの記憶の中に、「菅茶山」を残すことは将来につながる道だと思います。

菅茶山は八十歳で亡くなられるまで、廉塾経営や後継者についてずいぶん思考され、苦勞され、神辺に茶山分かを遺されたと聞いています。私達も茶山先生の遺芳・遺訓に学び、次世代に繋がる顕彰活動に努めたいと思います。廉塾を福山藩の郷塾にして存続を確かなものにし、後継者づくりにもご苦勞されました。コロナ禍の一日も早い終息を祈念します。